

ポスター発表「福井県獣医師会のモルモット飼育モデル校」

～毎年恒例のポスター展～

大門 由美子



福井県内の小学校での動物飼育（哺乳類と鳥類）について、平成14年頃まで9割の学校で実施されていましたが、平成23年頃には激減し、2割以下に減ってしまいました。高病原性鳥インフルエンザの発生を受けて県内の小学校から鶏が一斉に居なくなったこと、ウサギの過繁殖の制限のために避妊去勢を実施したことなどによると考えられます。一度飼育舎から動物がいなくなると、再度飼育を始める学校は皆無に等しく、学校から動物の姿が消えていきました。それまでの動物飼育がほとんど評価されず、また学校の大きな負担になっていたからではないかと思えます。

公益社団法人福井県獣医師会は、専門的な立場から学校を支援し子ども達の傍にいる動物と一緒に見守ることを目的として、平成14年から委員会を設けて、学校での動物飼育支援に取り組みを始めました。平成24年からは県内の小学校へ向けて、モルモット飼育モデル校の募集及び支援を行っています。この事業は平成23年に、福井県健康福祉部医薬食品安全課が主管する「福井県動物愛護管理推進計画」に基づき、やさしさあふれる福井っ子の育成のための一つとして始まりました。県内で動物を飼育する小学校が激減したことを受け、行政からスタートしたこの事業は、翌年から獣医師会に引き継がれ現在に至ります。

県獣医師会に業務がスムーズに移行できたのは、県の担当者も県獣医師会の学校飼育動物事業委員会のメンバーであり、事前にしっかり目的が共有され、

「県主導でのスタートだが実働部隊は獣医師会」という意識の統一がなされていたからです。しかし、残念ながら県からの予算は初年度だけで、以後は獣医師会の予算で賄われています。当時、県内200ほどある小学校のうち、動物を飼育している学校は、12校まで減少しており、このままでは学校から動物がいなくなってしまう！という危機感がありました。何とか学校で動物を飼育してもらうために、動物飼育の障害となるものをクリアすべく計画していきました。

その大きな柱は、「学校の金銭的な負担はゼロ。獣医師が学校に張り付いて学校の不安や教諭の負担を減らす」というものでした。平成28年まで毎年2校程度のモデル校募集を行い、現在、モデル校は17校となりました。モデル校では1、2年生でモルモットが教室内飼育されています。モデル校では、ふれあい授業から始まり、実際に飼育するモルモットの導入、ホームステイのための保護者説明会、道徳や国語の授業での活用（獣医師はゲストティーチャーとして参加する）、モルモットが体調を崩した時には受診治療するなど、担当する獣医師が密接に学校と関わっています。

これらモデル校には課せられた課題があります。毎年県内で開催される動物愛護フェスティバルに学校独自のポスターを制作し、近隣で開催された場合は15分から20分程度子ども達による発表を行うというものです。毎年、多忙な学校行事の中で、生活科や特別活動、道徳の授業などに飼育しているモルモットを活用している様子を描いた賑やかなポスターが提出されます。

今回の研究大会では、毎年、福井県内各地で開催されるポスター巡回展で出張展示したもののなかからいくつかご紹介いたしました。ポスターは学校により特色があります。保護者の協力や先生方の指導のもとに動物と関わる子ども達の生き生きとした様子をご覧いただければ幸いです。

（公益社団法人福井県獣医師会理事）